

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察注意報第6号について

平成30年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

平成30年度病害虫発生予察注意報第6号

トマトの葉かび病、すすかび病の発生が多くなっています。

適切なほ場管理と適期防除に努めましょう。

- 1 病害虫名 : 葉かび病、すすかび病
- 2 作物名 : 冬春トマト（ミニトマトを含む）
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : やや多

5 注意報の根拠

- 1) 2月中旬に実施した巡回調査において、葉かび病の発生面積率は平年より**多**、程度（発病葉率）は平年より**やや多**であり、すすかび病は発生面積率が平年並、程度が平年より**多**の発生であった（図1、図2）。

葉かび病

発生面積率：30.0%（前年 20.0%、平年 13.2%） 平年より**多**
発病葉率：7.4%（前年 5.9%、平年 2.4%） 平年より**やや多**

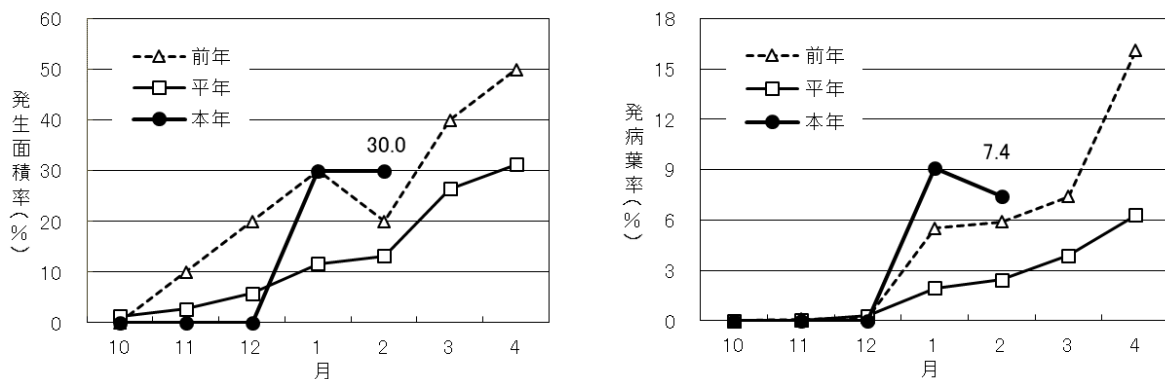


図1. 葉かび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)の推移

すすかび病

発生面積率：20.0%（前年 30.0%、平年 14.4%）

平年並

発病葉率：4.1%（前年 0.5%、平年 1.4%）

平年より多

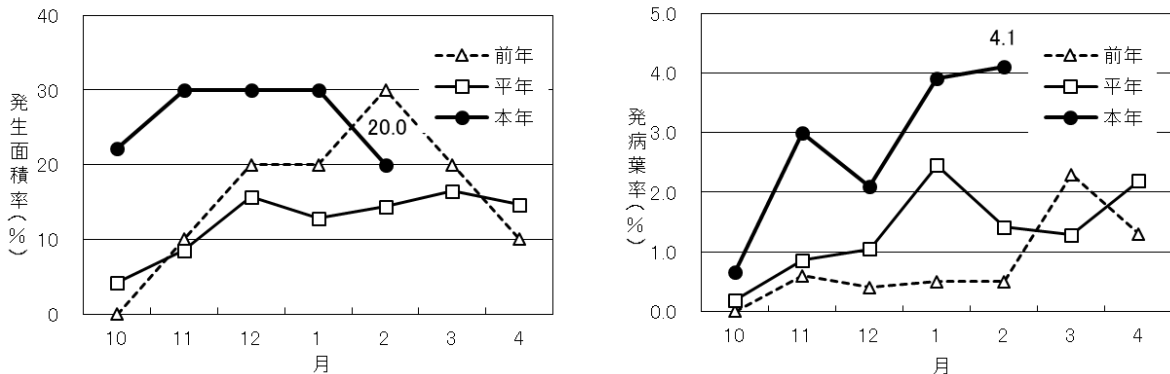


図2. すすかび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)の推移

- 2) 向こう1か月の気象予報では、平年に比べ気温が高く、降水量が多い予報である。そのため、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台2月14日発表1ヶ月予報）。

6 防除上の注意

- 1) 両病害とも密植や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。さらに、加温機で送風を行うなどして発病しにくい環境作りに努める。
- 2) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、すみやかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
- 3) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおく。発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。
- 4) 今後は、灰色かび病等、他の病害の発生も多く見られるようになるので、日頃からほ場をよく観察し、施設内管理を徹底するとともに早期発見・防除に努める。

7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課
(病虫害防除・肥料検査センター) 松浦・倉永

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp